

☆ここに挙げた 5 領域に沿った課題設定を子どもひとりひとりの発達や特性に合わせて行い、個別の支援計画として提示します。利用児本人の意向や支援計画の理解、了承など、自己決定の機会も保障しています。

ぽっぽ・ぴーす

運動・感覚

言語・コミュニケーション



♪友だち同士のやりとりを楽しんだり、気持ちのぶつかり合いがある中、自分たちで解決しようとする姿（お互いが育ちあおうとする姿）を見守り、過支援とならないよう見極めながら、スタッフが子どもたちに寄り添います。

♪人と話す時のルール・公共の場でのルールなど、実体験を通じて学び合えるような活動を設定しています。



♪サッカーや鬼ごっこ、ヨガ、リズム運動、お散歩などの粗大運動を楽しめるような活動を提供します。（粗大運動が手指機能の発達を促します）

♪砂遊び、泥んこ遊び、水遊び、スライム作りなど、「冷たい」「気持ちいい」等の感覚をしっかりと味わうことで、五感に働きかけ脳を刺激し、心身の発達を促していきます。

人間関係・社会性

♪まず第一に、ぽっぽ・ぴーすが安心できる居場所となり、スタッフとの信頼関係がしっかりと築けるよう関わっていきます。

♪隣接する小規模保育園の園児と交流する中で、「お兄さん・お姉さん」の自覚をもち、年上としての振る舞いを学び、慕ってもらったり「ありがとう」と言ってもらえる経験を通して、自信につながるよう支援していきます。

♪ルールのある遊びを提供し、大人も一緒に楽しむ中で「ルールを守って遊ぶことの楽しさ、心地よさ」を感じていけるよう支援していきます。

認知・行動

♪遊びや関わりの中で、自分の行動を振り返ったり、相手の気持ちを考えたりと『自己理解』と『他者理解』を促します。

♪医療機関等での発達検査の結果や、行動観察など、細かなアセスメントを基に、個々の発達段階に即した教材・教具を準備しています。仲間やスタッフとそれを楽しんでいく中で、安心感を感じながら、「少しがんばってみたらできた!」「自分一人でもできた!」という達成感を味わい、自己肯定感を高めていきます。



健康・生活

♪自分の体調と向き合いながら、事業所の庭や隣の公園で、陽の光を浴びながらしっかりと身体を動かして遊んだり、室内でのんびり過ごしたりして、健康的な身体作りを促します。

♪見通しをもって安心できる中で生活し、少しずつ、「予定変更…まあいいか!」と思えるような気持ちの柔軟性も養っていきます。そのためにも、スタッフも子どもとの暮らしを、「まあいいか!」という心構えで楽しんでいきます。

